

3. 教育長の報告

(1) 令和3年3月 市議会 一般質問項目について

(妹尾教育長) 資料により説明

(野田委員) 「ユニバーサルデザインフォントの学校への導入」というのは具体的にはどういったことなのか。

(学校教育課長) 特別支援教育の観点から全国的にユニバーサルデザインフォントが良いということが広まった。現在は、ワードなどのフォントにもある。プリントなどの文字にユニバーサルデザインフォントを使用するようになった。

(妹尾教育長) 教科書の文字もユニバーサルデザインフォントとなっている。

(野田委員) 義務教育学校のデメリットについてはどんなことを答えたか。

(学校教育課長) 一般的に言われることとして、人間関係が固定化される、小学校高学年のリーダー性が阻害されるということがある。これについては、小規模校の課題と同様であり、義務教育学校に限定したものではない、と答弁している。

4. 議 事

(1) 議案第6号 玉野市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則について

(教育総務課長) 資料により説明

(2) 議案第7号 玉野市教育委員会の職員の職名規則を廃止する規則について

(教育総務課長) 資料により説明

(3) 議案第8号 玉野市立学校管理規則の一部を改正する規則について

(学校教育課長) 資料により説明

(4) 議案第9号 玉野市費負担教員の任用等に関する規則及び玉野市費負担教員の給与の臨時特例に関する規則を廃止する規則について

(学校教育課長) 資料により説明

35人学級実施事業については、小学校の小規模化が進む中で、36人以上となる学級が想定されないことや、国と県が法改正により順次35人学級を実施していくことで、単市での常勤講

師配置が必要なくなった。また、備南高校の養護助教師については、3月末で定年を迎え、次年度からは会計年度任用職員となる。両規則を適用する市費負担教員がいなくなるため廃止するものである。

(妹尾教育長) 今後、小学校で36人以上となる学級が突発的に発生した場合は、どのように対応するのか。

(学校教育課長) 非常勤講師を配置し、国語、算数などは少人数指導ができるように対応したいと考えている。

(原案可決)

5. 協 議 なし

6. その他

(1) 令和3年度当初予算（教育委員会関係分）の概要について

(各課長) 資料により説明

(野田委員) 小学校長期欠席・不登校対策推進事業の登校支援員は具体的にはどのようなことを行っているのか。

(学校教育課長) 学校によって勤務時間は異なるが、登校時に支援が必要な児童がいれば家まで迎えに行ったり、別室登校を行っている児童がいればその対応を行ったりしている。割り振られた時間で状況に応じて勤務いただいている。

(太宰委員) 市史編さんに携わる委員は何人くらいなのか。

(社会教育課長) これから検討する。今回は昭和40年代以降の現代史を編さんするようになる。編さん委員はどのような方がいいのか、どの部分を誰に担当してもらってもいいかも含めて検討していくこととなる。

(加藤委員) 非常勤講師配置事業でこんなに多くの時間が必要なのはどうか。

(学校教育課長) 様々の要素がある。例えば、山田中、東児中のような全校3学級の学校は、教科担当教員が6人しか配置されない。9教科中6教科しか配置されないため、残りの3教科は非常勤講師で対応することとなる。玉中、日比中、八浜中のような全校5～6学級の学校については、教科担当教員が10人程度であり、1

教科1人では全学級対応できないため、非常勤講師を配置して対応する。本市の中学校規模は、そういう状況である。また、実技教科のうち、技術科、家庭科、美術、音楽については市内にほとんど教員が配置されていないため、非常勤講師で対応せざるをえない。宇野中や荘内中についても、学力向上のための少人数指導を行うために、非常勤講師を配置している。小学校については、担任以外は余剰人員がいないため、空き時間がない。例えば、図画工作だけや音楽だけを指導する非常勤講師を配置するなど、担任の授業以外の業務を行う時間を確保している。田井小や荘内小なども不足している部分を補うために非常勤講師を配置して対応している。

(加藤委員) 児童・生徒の減少によって様々なところにしわ寄せが来ているということが分かった。市内の学校数の見直しをすることは必要だと感じる。もっと子どもたちのことを考えていかなければならないと思った。

(野田委員) 県教委は対応してくれないのか。

(学校教育課長) 県費非常勤講師も配置している。足りない部分を市費で配置している。県費の配置時間数も年々減少している。

(2) 令和2年度人事異動について (会議は非公開であったが、現時点で公表されている内容であるため会議録を公開する。)

(就学前教育課長) 資料により説明

(学校教育課長) 資料により説明

学校関係は、3月26日まで非公開である。取り扱いには注意して欲しい。

(3) 鉾立小学校木造校舎耐震化代替案説明会に係るアンケート結果について

(教育総務課長) 資料により説明

案①が優勢ではあるが、無回答も多く、さらに議論を深める必要があるという意見もあるため、今後も議論を重ねて、継続してアンケートを実施したいと考えている。また、代替案の協議を慎重に進めていく一方で、一日も早い安全確保を求める声もあることから、代替案の協議とあわせて、災害発生時の対策についても学校や保護者と協議していきたいと考えている。今後の協議のスケジュールとしては、4月下旬にPTA総会の場を活用して保護者との協議を実施し、5月中旬から下旬に地域住民との協議を実施する予定である。今後は、案①を軸にして協

議を進めて行きたいと考えている。

- (野田委員) 説明会では保護者が意見を言いにくかったような感想があったり、胸上小へ行けば良いのではないかというような意見も見られる。スクールバスを出して胸上小へ行けば、改修工事をするよりはるかに安い。
- (教育総務課長) 胸上小に行く案については、鉾立小が廃校になる案となってしまうため、敢えてこちらからの提案はしていない。もし、保護者が胸上小と統合してもいいということになれば、経費もかからないし、現実的に子どもたちのためにもなる案なので、考えていきたい。また、保護者が発言しにくかったという意見があったため、今回は、まずはPTA総会で保護者と協議することとした。
- (太宰委員) 「アンケートにNoをつけていることに市の思惑を感じた」とあるが、どういうことか。
- (教育総務課長) 何を思惑として感じたのかはわからない。ちょうど鉾立小学校の廃校に反対するような署名運動が広がっており、アンケート用紙がコピーされて、説明会に出席していない人が回答するようなことになると、統計的な価値を欠く可能性があったため、重複防止の目的で番号をつけていた。誰が何番かは全くわからないが、回答を監視しているかのような誤解を与えたようである。
- (太宰委員) 少し鉾立小と状況は異なるかもしれないが、30年くらい前には、玉小と奥玉小学校の統合問題があった。私も地域の人に呼ばれ、どう思うか意見を聞かれたことがあった。自分の子どものことを考えれば、統合してたくさん的人数がいる環境で色々な経験をさせてやりたいと考えたため、奥玉小と玉小が統合することに賛成だと言ったところ、ものすごく地域の人から責められた。地域の人には自分たちの感情論で意見を言われることが多いと思う。賛成の方の意見はなかなか聞いてもらえないことが多い。反対意見ばかり目立ってくる傾向にある。子どもたちのことを考えて、前向きに考えて欲しいと思っている方の意見や、今、子どもがいる保護者の意見もしっかり聞いて欲しいと思う。全員が納得するような方向は難しいとは思いますが、教育委員会としての方向性を皆さんに理解してもらえるように丁寧に説明して欲しいと思う。

(妹尾教育長) この件については、まだまだ話し合いが必要だと考えている。
今後進展があれば教育委員会にも報告する。

(4) 玉野市立高等学校入学者選抜の状況について

(学校教育課長) 資料により説明

(5) 令和3年4月／5月 月間行事予定について

(教育総務課長) 資料により説明

次回、教育委員会定例会は令和3年4月6日(火) 10:00から開催するので参
集願います。以上で、第4回教育委員会を閉会します。

会議録調製者	書記	清山 智保
会議録署名委員	教育長	妹尾 均
〃	教育長職務代理者	妹尾 恵美